

第2期須賀川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和4年度実績評価

1 概要

本市では、人口減少社会に向き合い、地域経済縮小を克服するため、平成27年10月に「須賀川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するとともに、令和2年3月には「第2期須賀川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下「総合戦略」という。)として改訂し、本市ならではの強みや特長を最大限生かしながら、「まち・ひと・しごとの好循環」を具体化するための施策戦略に取り組んできました。

本市の総合戦略は、4つの基本となる柱のもと、11の施策戦略と数値目標、26の基本事項と52の重要業績評価指標(KPI)をそれぞれ設定し、これを基にPDCAサイクルによる検証を行うため、今回、令和4年度の実績について評価を取りまとめました。

2 戦略全体の評価結果【参考値】

施策戦略及び基本事項における各種取り組みにおいては一定の進展がありましたが、新型コロナウイルス感染症や急激なエネルギーなどの物価高騰の影響等を大きく受けたことから、4つの基本となる柱のいずれも、分野全体においては概ね「横ばい」、若しくは若干の「低下」傾向にあると考えられます。

基本となる柱	数値目標					重要業績評価指数(KPI)				
	向上	横ばい	低下	実績値なし	合計	向上	横ばい	低下	実績値なし	合計
1 産業力を強化するまちづくり	0	0	3	0	3	8	1	4	1	14
2 すかがわの宝を生かしたまちづくり	0	2	1	0	3	5	0	7	0	12
3 子どもたちの笑顔あふれるまちづくり	0	1	1	0	2	5	2	5	0	12
4 健康な暮らしを守るまちづくり	1	0	2	0	3	4	3	6	1	14
合計	1	3	7	0	11	22	6	22	2	52
割合	9.1%	27.3%	63.6%	0.0%	100%	42.3%	11.5%	42.3%	3.9%	100%
数値目標と重要業績評価指数(KPI)を合わせた割合	36.5%	14.3%	46.0%	3.2%	100%					

3 検証

市内各界各層の代表者をはじめ、外部有識者で構成する須賀川市まちづくり推進会議において、令和4年度実績評価に対する検証を行い、評価手法に関することも含め様々な意見をいただきました。

評価結果と須賀川市まちづくり推進会議での意見等を踏まえながら、引き続き、総合計画と一体的に地方創生を推進していきます。

【各数値目標及び重要業績評価指数(KPI)について】

- ・重要業績評価指標(KPI) : Key Performance Indicatorの略称、事業ごとの進捗状況を検証するために設定する指標(目標値)
- ・令和4年12月に国が「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定したことに伴い、国の戦略を勘案した「地方版総合戦略」を新たに策定するため、総合戦略の計画期間を1年間延長し、令和5年度までとしています。なお、数値目標及び重要業績評価指数(KPI)は、新型コロナウイルス感染症の影響等によりその多くが目標値未達成であるため、目標値は据え置いています。
- ・実績値の「ー」は、2年に1度実施する市民アンケート、国勢調査など各種調査による数値のため該当年度に実績値が未取得であるもの、または、新型コロナウイルス感染症の影響により事業が実施できなかったため実績がないものです。
- ・令和4年度においては、施策戦略の数値目標、基本事項のKPIのいずれも新型コロナウイルス感染症の影響等が大きく、実績値と総合戦略策定時に設定した値(以下「基準値」という。総合戦略では現状値と表記しています。)との比較が難しいため、令和2年度及び令和3年度に引き続き、基準値に対して実績値がどのような状況にあるかを示す「進捗状況」欄は記載していません。

4 評価

1 産業力を強化するまちづくり

施策戦略1-(1) 雇用の創出と多様な就業環境の整備

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
有効求人倍率(年平均)	1.26倍	0.93倍	1.06倍	1.17倍		1.3倍	—

【数値目標の傾向】
 「有効求人倍率(年平均)」は、基準値と比べ低下していますが、新型コロナウイルス感染症による行動制限等が緩和され、経済活動が徐々に回復したことに伴い、企業の求人数が回復傾向にあることなどにより、前年度からは向上しています。

【施策戦略の総合評価】
 新型コロナウイルス感染症やエネルギーなどの物価高騰の影響等を大きく受けた中小企業、小規模事業者の事業継続、雇用の維持を図るため、各種支援に取り組みました。引き続き、商工会議所や商工会などの関係機関と連携しながら支援に努めるとともに、地域経済の活性化への取り組みを通して雇用の維持、創出を図る必要があります。

基本事項① 企業誘致の推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
市内立地企業数(平成25年度以降の累計)	7社	9社	9社	9社		10社	—
市内立地企業による雇用数(平成25年度以降の累計)	158人	221人	221人	221人		200人	—

【主な状況、成果、課題等】
 「市内立地企業数」及び「市内立地企業による雇用数」は、本市の持つ立地条件の優位性や全国トップクラスである企業立地支援制度により、基準値と比べ向上していますが、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症やエネルギーなどの物価高騰の影響等により、景況が不安定であったことなどから、新たな企業の進出はありませんでした。引き続き、社会経済情勢や企業の動向などを注視しながら、空き工場バンクの活用や関係機関との連携などにより、市内への企業誘致を図っていく必要があります。

基本事項② 女性・障がい者・高齢者などの就業環境の整備

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
市及び関係機関で行っているセミナー等参加者数	143人	84人	411人	503人		160人	—
ふるさと回帰支援事業利用者数	11人	7人	7人	19人		15人	—

【主な状況、成果、課題等】

「市及び関係機関で行っているセミナー等参加者数」及び「ふるさと回帰支援事業利用者数」は、合同就職面接会や就職ガイダンスなど、求職者と企業とのマッチングの機会を設け、就職の支援に努めたことなどにより、基準値及び前年度と比べ向上しており、目標値を達成しています。

引き続き、UIターンでの就業促進の取り組みを進めるとともに、ニーズに応じた支援制度への見直し・拡充を図っていく必要があります。

施策戦略1-(2) 農業の担い手の育成・確保と地域特産物ブランド化の推進

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
農産物の売上額(JA)	4,983百万円	4,960百万円	4,623百万円	4,365百万円		5,000百万円	—

【数値目標の傾向】

「農産物の売上額(JA)」は、降ひょうなどの自然災害の被害を受けた園芸品目においては、その後の好天により生産量が回復し売上額は増加した一方、米消費の落ち込みなどを要因とした米価の低迷により米穀の売上額が減少したことなどにより、基準値及び前年度と比べ低下しています。

【施策戦略の総合評価】

出荷量、販売額ともに、農家戸数や作付面積の減少、農業従事者の高齢化や後継者の不足、自然災害などにより、低下傾向にあります。地産地消の推進や市内外の販路拡大に努め、農家の所得の安定、向上を図るとともに、新規就農支援や農地集積の推進、スマート農業の普及、拡大などに努めていく必要があります。

基本事項① 農業担い手の育成・確保

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
認定農業者率	7.7%	7.0%	6.8%	6.8%		9.3%	—
担い手への農地利用集積面積(累計)	3,061.3ha	3,238.1ha	3,417.6ha	3,493.6ha		3,500ha	—

【主な状況、成果、課題等】

「認定農業者率」は、農業従事者の高齢化や後継者の不足等により、基準値と比べ低下しており、前年度からは横ばいです。

「担い手への農地利用集積面積(累計)」は、経営規模の大きな個人や団体への集積が進んできたことにより、基準値と比べ432.3ha増加しています。

引き続き、認定農業者となるメリットの周知や新規就農支援、中核的担い手農家への農地集積などに取り組むとともに、農業所得の安定、向上を図る必要があります。

基本事項② 農産物の生産振興

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
代表的な産地指定農産物のJA出荷量(キュウリ)	5,270t	4,962t	5,099t	4,239t		6,440t	—
代表的な特産農産物のJA出荷量(日本ナシ)	1,156t	684t	580t	918t		1,290t	—

【主な状況、成果、課題等】

「代表的な産地指定農産物のJA出荷量(キュウリ)」は、基準値及び前年度と比べ低下しています。
 「代表的な特産農産物のJA出荷量(日本ナシ)」は、基準値と比べ低下していますが、前年度からは向上しています。
 これらは、農業従事者の高齢化や後継者の不足による農家戸数や作付面積の減少に伴う生産量の減少、降ひょう等の自然災害などが要因と考えられます。
 引き続き、国県等の補助を活用した栽培環境の向上や効率化、農業担い手の確保に努め、生産基盤の強化を図る必要があります。

基本事項③ 特産農産物の販売促進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
代表的な産地指定農産物のJA販売額(キュウリ)	1,885百万円	1,801百万円	1,433百万円	1,692百万円		1,900百万円	—
代表的な特産農産物のJA販売額(日本ナシ)	293百万円	324百万円	207百万円	306百万円		365百万円	—

【主な状況、成果、課題等】

「代表的な産地指定農産物のJA販売額(キュウリ)」は、基準値と比べ低下していますが、前年度からは向上しています。
 「代表的な特産農産物のJA販売額(日本ナシ)」は、基準値及び前年度と比べ向上しています。
 これらは、降ひょう等の自然災害による影響を受けたものの、その後の好天による生産量の回復や全国の出荷状況による販売単価の上昇などが要因と考えられます。
 引き続き、地産地消の推進、特産物のPRや販路開拓、第三者認証GAPの取得推進など、地域特産物のブランド化に努める必要があります。

施策戦略1-(3) 商工業の競争性の向上

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
経営状況が良いと感じている事業所の割合	16.7%	8.3%	17.7%	11.7%		20.0%	—

【数値目標の傾向】

「経営状況が良いと感じている事業所の割合」は、エネルギーなどの物価高騰の影響等により、基準値及び前年度と比べ低下しています。

【施策戦略の総合評価】

エネルギーなどの物価高騰の影響が懸念されます。一方、中心市街地においては、休日歩行者通行量が増加傾向にあり、新規出店も増えています。引き続き、事業者のニーズを的確に把握し、効果的な支援を実施していくことで、地域経済の活性化を図る必要があります。

基本事項① 商工業の育成支援

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H28)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
市内卸売・小売業年間売上高	131,949百万円	—	—	131,570百万円		133,000百万円	—
市内製造品出荷額等	167,352百万円	162,741百万円	159,833百万円	—		200,000百万円	—

【主な状況、成果、課題等】

「市内卸売・小売業年間売上高」は、2021(R3)年経済センサス活動調査で1,315億7,000万円となっており、基準値となる前回調査と比べ概ね横ばいです。
「市内製造品出荷額等」は、工業統計調査等に基づき取得していますが、2023(R5)年7月時点で公表されていないため、実績値は取得できませんでした。
引き続き、工業製品の認定やふるさと商品の販路開拓支援、中小企業の人材育成や企業間のネットワーク構築支援など、既存企業の育成支援に努めるとともに、エネルギーなどの物価高騰の影響を踏まえた支援を検討する必要があります。

基本事項② 中心市街地の活性化

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
休日歩行者通行量	1,960人/日	2,992人/日	3,871人/日	3,862人/日		2,400人/日	—
新規出店数(3年間の累計)	18店舗 (2013～2018)	12店舗 (2020)	23店舗 (2020～2021)	37店舗 (2020～2022)		20店舗 (2020～2022)	—

【主な状況、成果、課題等】

「休日歩行者通行量」は、市庁舎や市民交流センター、風流のはじめ館の開館、新規出店数の増加などにより、まちなか回遊がさらに促進されたことで、基準値と比べ向上し、前年度からは概ね横ばいで推移しており、目標値を達成しています。

「新規出店数(3年間の累計)」は、令和2年度からの3年間で37店舗の出店があり、目標値を達成しています。

引き続き、公共空間の民間利活用促進、出店支援、市民交流センターや翠ヶ丘公園でのイベント開催などを通して、中心市街地の更なる魅力向上を図る必要があります。

2 すかがわの宝を生かしたまちづくり

施策戦略2-(1) 特撮文化拠点都市の構築とブランド力の向上

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
特撮文化が須賀川市の特長だと思ふ市民の割合	87.5%	87.5%	—	88.8%		90.0%	—
<p>【数値目標の傾向】 「特撮文化が須賀川市の特長だと思ふ市民の割合」は、基準値及び前年度(R2)と比べ概ね横ばいです。</p> <p>【施策戦略の総合評価】 円谷英二ミュージアムや須賀川特撮アーカイブセンターの特撮文化関連施設、特撮やウルトラマンの関連イベントなどを通して、特撮文化が市民にとって、より身近になってきていると考えられます。 引き続き、特撮文化関連施設、関係機関等との連携を密に図りながら、地域の特色ある資源を活用する各種施策に取り組むとともに、積極的な情報発信に努める必要があります。</p>							

基本事項① 特撮文化拠点都市の構築・発信

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
特撮文化推進事業実行委員会主催事業の来場者数	0人	0人	1,293人	128人		250人	—
円谷英二ミュージアム来館者数	23,162人 (H31.1.11~3.31)	22,772人	34,572人	47,106人		50,000人	—
<p>【主な状況、成果、課題等】 「特撮文化推進事業実行委員会主催事業の来場者数」は、定員を設定した参加申込型事業のみを実施したため、前年度からは低下しています。 「円谷英二ミュージアム来館者数」は、基準値が年間を通じた来館者数ではなく、また、令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響や福島県沖地震による休館などがあったため、単純比較はできませんが、前年度からは向上しています。 引き続き、特撮文化関連施設との連携を図るとともに、関係機関等と協力しながら、特撮文化の継承に向けた事業展開と情報発信に取り組む必要があります。</p>							

基本事項② 地域資源・ブランドを活用したイメージアップの推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
地域ブランド力活用事業を活用し売上が増加した事業者数	10社	8社	7社	2社		12社	—
仮想都市「すかがわ市M78光の町」住民登録者数	15,283人	18,949人	20,593人	23,582人		20,000人	—
<p>【主な状況、成果、課題等】 「地域ブランド力活用事業を活用し売上が増加した事業者数」は、円谷英二監督と関連性があるキャラクターや市マスコットキャラクターを活用した商品開発等へ支援してきましたが、基準値及び前年度と比べ低下しています。 引き続き、活用事例などを明示しながら、更なる制度周知を図るとともに、開発商品のPRIに取り組む必要があります。 「仮想都市『すかがわ市M78光の町』住民登録者数」は、イベントを実施し、積極的な情報発信に努めたことで、基準値と比べ8,299人増加しており、目標値を達成しています。 引き続き、更なる事業展開を図るとともに、魅力的なコンテンツの提供に努める必要があります。</p>							

施策戦略2-(2) スポーツ振興によるイメージアップ戦略の展開

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
スポーツに親しんでいる市民の割合	56.2%	55.6%	—	58.1%		65.0%	—

【数値目標の傾向】

「スポーツに親しんでいる市民の割合」は、基準値及び前回値(R2)と比べ概ね横ばいです。

【施策戦略の総合評価】

新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで、スポーツ活動の自粛、スポーツ大会や教室の中止、規模縮小などが続いていましたが、令和4年度においては、大会や教室が再開されるなど、スポーツに親しむ機会が増加してきていると考えられます。

引き続き、市民ニーズを踏まえた大会、教室を開催するなど、安全、安心にスポーツに親しむことができる機会の充実に取り組む必要があります。

基本事項① スポーツによるイメージアップの推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
円谷幸吉メモリアルマラソン大会参加者数	3,084人	0人	231人	1,134人		3,200人	—
激励金受給者の上位大会(東北大会以上)での入賞者数	57人	25人	34人	69人		65人	—

【主な状況、成果、課題等】

「円谷幸吉メモリアルマラソン大会参加者数」は、基準値と比べ低下していますが、令和3年度と比べ種目数を増加し、また、居住地域の制限を行わず開催したため、前年度からは向上しています。

「激励金受給者の上位大会(東北大会以上)での入賞者数」は、中止等となっていた各種大会が開催されたことなどにより、基準値及び前年度と比べ向上しており、目標値を達成しています。

令和4年度は円谷幸吉メモリアルホールでのデジタル展示の開始、全国小学生一輪車大会の開催、パートナーシップ協定を締結している福島レッドホープスとの連携事業などに取り組んだところですが、令和5年4月1日から名称を変更した円谷幸吉メモリアルアリーナを中心として、引き続き、スポーツによるイメージアップの推進を図る必要があります。

基本事項② 生涯スポーツ活動の推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
スポーツ大会・教室の参加者数	34,579人	5,615人	7,806人	10,723人		41,800人	—
スポーツ施設の利用者数	526,436人	249,415人	404,976人	464,262人		601,500人	—

【主な状況、成果、課題等】

「スポーツ大会・教室の参加者数」及び「スポーツ施設の利用者数」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館、スポーツ大会など各種事業の中止、規模縮小などをやってきたため、基準値と比べ大きく低下していますが、各種大会等も再開されてきているため、前年度からは向上しており、回復傾向にあります。

引き続き、スポーツに触れる様々な機会を提供しながら、各種大会等の参加者数の増加などにより生涯スポーツ活動の推進に努めていく必要があります。

施策戦略2-(3) 地域資源を活用した観光振興と交流の推進

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
休日14時に本市に滞在していた人数	58,685人	59,046人	58,517人	57,918人		60,400人	—

【数値目標の傾向】

「休日14時に本市に滞在していた人数」は、前年度より県外からの来訪者は増えたものの、市外へ移動した市民も増えたと推測され、基準値及び前年度と比べ低下しています。
 ※県外からの訪問者(4月～6月累計) 東京都 R3:683人⇒R4:1,070人、宮城県 R3:634人⇒R4:874人、埼玉県 R3:542人⇒R4:712人、神奈川県 R3:452人⇒R4:673人 など

【施策戦略の総合評価】

新型コロナウイルス感染症の影響が続いていると考えられますが、市民交流センター来館者数などでは回復傾向にあります。
 引き続き、関係機関と連携して、多様化する観光ニーズに柔軟に対応する施策に取り組む必要があります。

基本事項① 文化交流拠点を活用した交流の推進と文化の創造

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
市民交流センター来館者数	153,163人 (H31.1.11～3.31)	369,103人	485,485人	560,006人		600,000人	—
文化芸能の活動をしている団体に所属している市民数	3,982人	3,384人	3,055人	2,734人		5,000人	—

【主な状況、成果、課題等】

「市民交流センター来館者数」は、基準値が年間を通じた来館者数ではなく、また、令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響や福島県沖地震による休館などがあったため、単純比較はできませんが、コロナ禍に対応した各種イベントの開催に努めたことなどにより、前年度からは向上しています。

「文化芸能の活動をしている団体に所属している市民数」は、会員の高齢化、新規会員の減少などにより、基準値及び前年度と比べ低下しています。
 引き続き、市民交流センターや風流のはじめ館などと連携し、幅広い世代の市民が文化活動に参画できるよう努めていく必要があります。

基本事項② 観光振興やインバウンドなどの推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
観光庁策定「観光入込客統計に関する共通基準」に係る観光入込客数	1,247,266人	782,400人	962,149人	972,987人		1,500,000人	—
福島空港の利用者数	267,356人	68,355人	97,250人	180,919人		300,000人	—

【主な状況、成果、課題等】

「観光庁策定『観光入込客統計に関する共通基準』に係る観光入込客数」は、新型コロナウイルス感染症の影響等によるイベントの中止や規模縮小などにより、基準値と比べ低下していますが、前年度からは向上しており、低迷した観光需要が一部回復したと考えられます。

「福島空港の利用者数」は、国際線の運休や国内定期路線の減便などにより、基準値と比べ低下していますが、搭乗率の上昇やチャーター便数の増加などにより、前年度からは向上しており、回復傾向にあります。

引き続き、県や周辺自治体と連携しながら、地域資源を生かした観光事業の展開を図るとともに、空港利用促進に向けたPR活動や助成制度の周知に努める必要があります。

3 子どもたちの笑顔あふれるまちづくり

施策戦略3-(1) 安心して出産・子育てができる環境の充実

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
この地域で子育てをしたいと思う3歳児以下の子どもを持つ保護者の割合	96.9%	97.1%	97.6%	97.1%		97.0%	—

【数値目標の傾向】

「この地域で子育てをしたいと思う3歳児以下の子どもを持つ保護者の割合」は、基準値及び前年度と比べ概ね横ばいですが、目標値を達成しています。

【施策戦略の総合評価】

安心して出産・子育てができる環境の充実に努めるとともに、切れ目のない支援に取り組んでいます。一方で、待機児童の解消には至っておらず、保育士等の人材確保や施設整備支援などの対策を講じるとともに、延長保育や預かり保育、一時保育、病児・病後児保育などの特別保育の受け入れ環境の整備、充実に取り組んでいく必要があります。

基本事項① 幼児教育・保育、学童保育などの充実

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
保育所、幼稚園、こども園の待機児童数	20人	26人	51人	20人		0人	—
放課後児童クラブの待機児童数	3人	51人	56人	74人		0人	—

【主な状況、成果、課題等】

「保育所、幼稚園、こども園の待機児童数」は、基準値と同数であり、前年度からは向上していますが、依然として待機児童の解消には至っていません。

「放課後児童クラブの待機児童数」は、基準値及び前年度と比べ低下しています。

これらは、核家族化の進行や保護者の就労形態の多様化などに伴う需要の増加、保育士不足による受け入れ定員の制限などが要因と考えられます。

引き続き、私立保育施設の整備支援、保育士確保への財政的支援などに取り組み、待機児童解消に向けた受け入れ定員の拡大に努める必要があります。

基本事項② 子育て支援の充実

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
子育て支援事業を利用した保護者の数	31,358人	16,936人	21,130人	25,614人		32,000人	—
こどもセンター施設利用者数	28,404人 (H31.1.11～3.31)	28,616人	38,052人	47,034人		80,000人	—

【主な状況、成果、課題等】

「子育て支援事業を利用した保護者の数」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、基準値と比べ低下していますが、前年度からは向上しており、回復傾向にあります。

「こどもセンター施設利用者数」は、基準値が年間を通した利用者数ではなく、また、令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響や福島県沖地震による休館などがあつたため、単純比較はできませんが、前年度からは向上しています。

引き続き、こどもセンター、子育て世代包括支援センター等の連携により、安全・安心な子育て支援事業の提供に努める必要があります。

基本事項③ 妊産婦と子どもの健康管理支援体制の充実

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	87.8%	90.6%	90.4%	90.1%		91.0%	—
乳幼児健康診査における問診項目(10項目)が全国の直近の平均値を上回る項目数	7項目	8項目	7項目	9項目		10項目	—
【主な状況、成果、課題等】 「ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合」は、基準値と比べ向上していますが、前年度からは概ね横ばいです。 「乳幼児健康診査における問診項目(10項目)が全国の直近の平均値を上回る項目数」は、基準値及び前年度と比べ向上しています。 引き続き、社会環境の変化や子育てニーズを捉えて、個々の状況に応じた切れ目のない支援を進める必要があります。							

施策戦略3-(2)「小中一貫教育」須賀川モデルの推進

数値目標	基準値(R01)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
ふくしま学力調査において正答率が県平均を上回っている科目数	2/10科目 (20.0%)	—	1/10科目 (10.0%)	1/10科目 (10.0%)		7/10科目 (70.0%)	—
【数値目標の傾向】 「ふくしま学力調査において正答率が県平均を上回っている科目数」は、基準値と比べ低下しています。なお、多くの科目で正答率の県平均との差は1%前後です。 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、ふくしま学力調査は実施されていません。 【施策戦略の総合評価】 新型コロナウイルス感染症の影響等による教育環境の変化に的確に対応する必要があります。引き続き、学校、家庭、地域社会が連携し、子どもたちの学びを保障できる環境を確保するとともに、活用力や思考力の育成、不登校児童・生徒に対するきめ細かな対応などに努める必要があります。							

基本事項① 開かれた学校づくりの推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
学校の行事等に参加・協力している市民の割合(中学生以下の子どもを持つ保護者は除く)	12.2%	7.5%	—	20.4%		16.7%	—
学校評議員による学校評価の平均点数(5点満点)	4.3点	4.3点	4.4点	4.4点		4.5点	—
【主な状況、成果、課題等】 「学校の行事等に参加・協力している市民の割合」は、基準値及び前回値(R2)と比べ向上しています。 「学校評議員による学校評価の平均点数」は、安心して学ぶことができる環境の整備が評議員や地域の方々から評価を得られていることなどから、基準値と比べ向上しており、前年度からは横ばいです。 引き続き、保護者や地域住民との協力体制を強化するなど、多様な学校教育活動において学校、家庭、地域社会が連携することで、地域に開かれた学校づくりを推進する必要があります。							

基本事項② 確かな学力の向上と環境整備

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
小6における国語・算数の正答率が県平均を上回っている科目数	0科目	—	0科目	0科目		2科目	—
中3における国語・数学の正答率が県平均を上回っている科目数	1科目	—	1科目	0科目		2科目	—
【主な状況、成果、課題等】 「小6における国語・算数の正答率が県平均を上回っている科目数」及び「中3における国語・数学の正答率が県平均を上回っている科目数」は、ありませんでした。 引き続き、活用力や思考力を伸ばせるように、主体的・対話的で深い学びが展開されるような授業づくりをさらに推進していくとともに、ICTの活用や教職員の資質・指導力の向上に取り組む、確かな学力の習得に努める必要があります。 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、全国学力学習状況調査は実施されていません。							

基本事項③ 心の教育の推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
1,000人当たりの不登校児童・生徒数	13.0人	9.8人	9.8人	15.7人		8.1人	—
不登校児童・生徒学校復帰率	12.0%	5.0%	6.8%	10.6%		30.0%	—
【主な状況、成果、課題等】 「1,000人当たりの不登校児童・生徒数」は、基準値及び前年度と比べ低下しています。 「不登校児童・生徒学校復帰率」は、基準値と比べ低下していますが、前年度からは向上しています。 これらは、不登校の要因や背景が複雑化しており、解決や短期間での復帰が難しくなっていることなどが要因と考えられます。 引き続き、不登校となる問題の未然防止、個々の要因や背景に応じたきめ細やかな指導、相談機会の拡充などに努めるとともに、家庭や関係機関と連携して、学校復帰に向けた支援に組織的に取り組む必要があります。							

4 健康な暮らしを守るまちづくり

施策戦略4-(1) 全世代が健康な暮らしを続けられるまちづくりの推進

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
この1年間に健康診断を受けている市民の割合	74.4%	70.1%	—	78.3%		80.0%	—
<p>【数値目標の傾向】 「この1年間に健康診断を受けている市民の割合」は、基準値及び前年度(R2)と比べ向上しています。</p> <p>【施策戦略の総合評価】 健診、検診に係る各指標は、集団検診の再開や医療機関への受診控えの解消などにより、堅調に推移していると考えられます。引き続き、未受診者に対する受診勧奨に取り組むとともに、様々な機会による受診案内など、受診率向上に努める必要があります。</p>							

基本事項① 生涯を通じた健康づくりの推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
健康長寿健診の受診率	11.3%	—	—	—		13.0%	—
ふくしま健民カード発行件数	47件	39件	42件	21件		100件	—
<p>【主な状況、成果、課題等】 「健康長寿健診の受診率」は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、健康長寿健診を中止したことから、実績値は取得できませんでした。 「ふくしま健民カード発行件数」は、基準値及び前年度と比べ低下しています。 引き続き、保健師、管理栄養士等による健康教育、健康相談、訪問指導に取り組むとともに、健康づくり推進員、食生活改善推進員と連携して、市民の健康づくりの推進を図る必要があります。</p>							

基本事項② 病気の早期発見・早期治療の推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
特定健康診査受診率	39.7%	34.8%	44.1%	42.7%		45.0%	—
市健康増進計画における5大がん検診受診率の目標を達成している検診数	5項目	2項目	5項目	5項目		5項目	—
<p>【主な状況、成果、課題等】 「特定健康診査受診率」は、基準値と比べ向上していますが、前年度からは低下しています。 「市健康増進計画における5大がん検診受診率の目標を達成している検診数」は、基準値及び前年度と同数であり、目標値を達成しています。 令和2年度から特定健康診査の自己負担金を無料化し受診率の向上を図っており、引き続き、健康診査に併せたがん検診の受診勧奨、若年層の未受診者に対する働きかけなどにより、受診率向上を図る必要があります。</p>							

施策戦略4-(2) 地域医療体制の充実と健康寿命の延伸

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
地域で支え合う仕組みづくりができていると思う高齢者の割合	56.8%	55.6%	—	49.6%		65.0%	—
【数値目標の傾向】 「地域で支え合う仕組みづくりができていると思う高齢者の割合」は、基準値及び前年度(R2)と比べ低下しています。 【施策戦略の総合評価】 介護予防の推進に関する指標は目標値を達成している一方、地域医療の充実に関する指標は新型コロナウイルス感染症の影響等により、低下傾向にあります。引き続き、状況を的確に捉えながら、地域医療の充実と地域包括ケアシステムの推進を図り、地域で健康に暮らしていただけるための取り組みを進める必要があります。							

基本事項① 地域医療の充実

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
市内の医療体制に満足している市民の割合	76.7%	80.6%	—	77.7%		85.0%	—
他の医療機関から紹介されて公立岩瀬病院を受診した患者の割合	38.0%	33.8%	49.8%	28.7%		50.0%	—
【主な状況、成果、課題等】 「市内の医療体制に満足している市民の割合」は、基準値及び前年度(R2)と比べ概ね横ばいです。 「他の医療機関から紹介されて公立岩瀬病院を受診した患者の割合」は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、全体の患者数に占める初診患者数の割合が増加したことなどから、基準値及び前年度と比べ低下しています。 従前と同様の医療を受けることが難しくなると市民が感じているためと推測されますが、引き続き、関係機関等と連携しながら、公立岩瀬病院における医師招へい活動の支援、休日夜間急病診療所の運営支援などに取り組み、安心できる地域医療体制の確保に努める必要があります。							

基本事項② 介護予防の推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
健康的に自立した生活ができている高齢者の割合	81.2%	81.1%	81.2%	81.4%		81.2%	—
新規要介護認定者出現率	4.9%	3.7%	3.5%	3.4%		4.9%	—
【主な状況、成果、課題等】 「健康的に自立した生活ができている高齢者の割合」は、基準値及び前年度と比べ概ね横ばいですが、目標値を達成しています。 「新規要介護認定者出現率」は、基準値及び前年度と比べ向上しており、目標値を達成しています。 これらは、高齢者人口が増加している中、介護予防に関する普及啓発や重度化予防の取り組みを継続して実施してきたことより、自立した生活ができている高齢者が増えていることが要因と考えられます。 外出機会の減少などによる心身機能の低下が懸念されるため、引き続き、フレイル予防・介護予防の周知啓発や生きがいづくり、健康づくりに取り組むことができる「通いの場」などの普及に努める必要があります。							

施策戦略4-(3) 住み続けられるまちづくりの推進

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
市民活動に参加している市民の割合	8.2%	6.1%	—	5.5%		10.0%	—

【数値目標の傾向】

「市民活動に参加している市民の割合」は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、基準値と比べ低下していますが、前回数(R2)と比べ概ね横ばいです。

【施策戦略の総合評価】

人口減少や少子高齢化、生活様式や価値観の変化、新型コロナウイルス感染症の影響など、市民生活に変化が生じていますが、引き続き、地域住民や関係機関等と連携を図りながら、住み続けられるまちづくりの推進に努める必要があります。

基本事項① 交通網の充実

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
公共交通の乗車人員	1,159,720人	1,068,041人	855,959人	874,115人		1,190,000人	—
交通手段がなくて困っている市民の割合	6.2%	5.2%	—	6.3%		6.0%	—

【主な状況、成果、課題等】

「公共交通の乗車人員」は、基準値と比べ低下していますが、前年度からは向上しています。

「交通手段がなくて困っている市民の割合」は、基準値及び前回数(R2)と比べ概ね横ばいで推移しています。

人口減少や生活様式の変化、新型コロナウイルス感染症の影響等による外出控え、高校の統廃合による路線バスの減便などにより、公共交通機関利用者が減少傾向にありますが、引き続き、交通弱者対策や交通不便地域解消に努めるとともに、地域ニーズや利便性を考慮した持続可能な交通手段の在り方についての検討を進めるなど、地域住民や関係機関等と連携を図りながら、公共交通網の充実を図る必要があります。

基本事項② 地域コミュニティ活動の推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
市民・行政・地域がそれぞれ協力しあって地域課題に取り組んでいると思う市民の割合	67.5%	68.3%	—	55.1%		76.0%	—
ふるさとづくり支援補助事業実施件数	40件	37件	11件	2件		45件	—

【主な状況、成果、課題等】

「市民・行政・地域がそれぞれ協力しあって地域課題に取り組んでいると思う市民の割合」は、基準値及び前回数(R2)と比べ低下しています。

「ふるさとづくり支援補助事業実施件数」は、新型コロナウイルス感染症の影響等に伴う地域活動の自粛などにより、基準値及び前年度と比べ低下しています。

少子高齢化、生活様式や価値観の変化、新型コロナウイルス感染症の影響等により、地域活動が中止や縮小している傾向にありますが、持続可能なまちづくりを推進するためには、地域コミュニティ活動の活性化は重要であることから、引き続き、市民と行政が協働して、自治会活動の活性化支援などに取り組む必要があります。

基本事項③ 持続可能な環境都市の構築

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況
住宅用再生可能エネルギー等システム設置補助利用件数	1,563件	1,855件	2,025件	2,184件		1,900件	—
リサイクル率(再資源化率)	17.2%	15.8%	15.8%	15.9%		18.0%	—

【主な状況、成果、課題等】

「住宅用再生可能エネルギー等システム設置補助利用件数」は、再生可能エネルギー利用に対する意識の浸透やエネルギー価格の高騰に伴う導入促進などにより、基準値と比べ621件増加しており、目標値を達成しています。

「リサイクル率(再資源化率)」は、新型コロナウイルス感染症の影響等により集団資源回収の活動が減少していることなどにより、基準値と比べ低下していますが、前年度からは概ね横ばいです。

引き続き、持続可能な環境都市の構築に向けて、再生可能エネルギー導入や省エネルギー・省資源の推進をはじめ、ESD環境教育の実施、ごみの分別や再資源化への啓発などに取り組んでいく必要があります。